

『カプラで大きな家をつくろう』 4歳児さくら組 2~3月 富雄南こども園



エピソード

クラスみんなで遊びたいことを話し合い「全員でいっぱいのカプラで遊びたい」と声があがりました。他クラスからもカプラを借り、初めはそれぞれに好きなものをつくって遊んでいましたが、一人の子がカプラの本を見つけ、「こんなみんなが入れるお家づくりたい!」とみんなに伝えました。

「めっちゃすごい!」「やってみたい!」と大賛成の子ども達でした。一番下の段を保育者が並べると、それぞれがカプラを持って積み上げていきました。「どんどん置こう」「そ〜とやで」「倒れちゃうかも」とドキドキしながら「結構高くなってきた!」と全体を確認しながら喜ぶ姿がありました。

「あ、ここ斜めになってるな」「崩れそうかも」「そ〜とね」と慎重にしているも、途中で部分的に崩れてしまうこともありましたが、「もう一回しよ!」「まだ時間あるね」と互いに励まし合いながら高くしていきました。みんなで全体を見て「おお〜すごい!」と大喜び!「今度はもっと高くしよう」「もっと長い時間したら高くできるかも」と楽しみにする様子が見られました。

保育者の思い

- ・子ども達の「やってみたい!」という思いを一緒に実現させたい。
- ・やってみたい目標に向かって、どうすれば良いか友達と話し合い、協力して遊ぶ楽しさを味わってほしい。
- ・途中で崩れても諦めずに目標に向かって挑戦してほしい。
- ・それぞれが夢中になってカプラを積み上げながら、友達同士の会話や関わりが増え、友達がしている場所へも視野を広げて遊んでいたりと、「もう少し前からつくってたらできてたかも」と時間に見通しを持ったりしている姿に成長を感じた。

子どもの育ちや学び

- ・自分のしたい思いをクラスの友達に伝え、みんなで共有している。
- ・『みんなの入れる大きなお家』というイメージを共有して積み上げ、崩れてしまっても何度も挑戦している。
- ・積み上げながら、斜めになって崩れそうな箇所や、慎重に置くための力加減などを調整している。
- ・どうすればもっと高くなるかを考えている。

家庭だったら・・・

- ・みんなでパズルやジェンガなど、多数で完成させる喜びやドキドキハラハラする気持ちを共有しながら遊ぶのも楽しそうですね。
- ・食卓へ料理を運ぶお手伝いなども、ポディーイメージをもちながら力加減を調節する経験に繋がるかもしれません。